

## 【審判員研修】TRAUM CUP派遣審判員参加レポート

氏名	平 裕太	所属	広島県
期間	2023/3/8～3/12		

3月8日	<p>15時30分に神宮ホテルに到着しました。18時30分の夕食の時間にこのU-20研修会に参加の審判員15名とインストラクター4名、JFAの名木さん、村山さんと顔合わせをしました。夕食後、20時より開校式が行われ、自己紹介から始まり、名木さんよりこの研修の狙いとしてリーダーシップの構築をしてもらいたいと話されました。テクニカルの部分では「判定基準」「ポジショニング」「マネージメント」「表現すること」の4つの視点で深く考え続け、自分のレフェリングが向上し、活躍できる審判員になってもらいたい。と話されていました。</p>
------	--

3月9日	<p>会場の鹿島ハイツスポーツプラザに移動し、スポーツマネージメントの岩崎さんより皆さんは審判員としてもそうですが、大会役員として参加してもらおうと、大会の運営方法とその他注意事項の説明がありました。その後名木さんより「表現すること」に関してベストシグナルの追及のレクチャーがあり、審判員全員でシグナルを確認しあったり、状況に合わせたベストなシグナルとは何なのか話し合いました。今まで私は主審時、コンパクトにシグナルを行っていました。ですが、「5秒間」シグナルを続けてほしい。と。内心そんなにシグナルし続けるのか!と驚きましたが、選手、チーム役員、観客から見たとき判定に自信を持っているように見える。ということを知り、納得できました。中継がある試合ではカメラが抜きやすくなるなど、自分の見栄えにも繋がります。</p> <p>試合は13時30分より、上武大学A対拓殖大学のA2を担当しました。午前では主審のシグナルを中心に考えたため、副審をしながら副審のベストシグナルとは何かを考えながら副審を行いました。副審でも5秒と長めに示すことは結果的に判定の説得力、主審のサポートにつながった事象が発生しました。</p> <p>夜のミーティングでは今日感じたことを振り返って共有するミーティングでした。その後名木さんよりマネージメントについてのレクチャーもありました。中でも印象的だったのは、選手とコミュニケーションをとることは大切だが、話すぎると逆にプレッシャーを与え、自分にとって厳しくなる事もある場合もある。ということでした。私はこの研修中はそのバランスの良いコミュニケーションを見つけようと思いその日は終了しました。</p>
------	---

3月10日	<p>この日は13時00分より拓殖大学対東北学院大学の前半の主審、後半はA1を担当させていただきました。前半だけで6点差のついたゲームとなりました。</p> <p>ゲーム自体は何事もなく進めることはできましたが、レフェリングの課題はありました。インストラクターの新さんよりポジショニングについてアドバイスいただきました。特にスローイン時、逆サイドにボールが展開されそうな時、位置していたその場でゴール、副審方向に背を向けるように回ってボールを追いかけていることがある。そうなってしまうとゴール方向に背を向けた状態＝ペナルティエリアの中のプレーやコンタクトが見ることができない状態。そうならないようにどこにポジションをとるのかステップの踏み方はそれでいいのか、ホテルに戻り、自分の映像を見ながら考えました。</p> <p>また、後半主審担当だった、岩手県FAの遠藤尊流さんが今までの審判経験で初めてのイエローカードを出したことがミーティング内で大きく話題となりました。報告書の書き方などサポートしました。</p>
-------	---

3月11日	<p>9:00より上武大学A対慶応義塾大学の試合をA1で90分担当させていただきました。インストラクターの平さんに試合を見ていただきました。この試合では自分も含め、審判団として試合を上手くマネージメントすることができず、選手にフラストレーションを抱かせてしまう試合となりました。</p> <p>試合終了後は怒った選手が思いもよらぬ言葉を審判にむけて発するという初めての経験もありました。その事態に対して、即座に扇谷委員長、名木さんがチームにコミュニケーションをとっていただき、その場は収まりました。レフェリングの方では平さんに判定に自信があってもレフェリーに合わせたほうが良い時もある。と教わりました。レフェリーエリアサイドでコーナーキックかゴールキックかきわどい判定の時、自分は見えていて、コーナーキックを示しましたが、主審はゴールキックを指しました。良く見え自信があったため、フラッグアップし、コーナーを主張し、主審に訂正させるということがありました。この時、選手たちからは、「レフェリー自信もって判定してよ！」と声上がり、自分の行為が主審の判定の説得力を下げてしまいました。これからはレフェリーサイド側の判定にはどんなに自分が見えていたとしても状況に合わせて主審の判定を見ながら旗を合わせたりというテクニックも意識してみたいと思います。</p>
-------	---

3月12日	<p>最終日は福山大学B对上武大学Aの主審を90分担当させていただきました。副審に先輩2級審判員二人と組ませていただきました。この試合は、今研修で学んだことを存分に発揮することをチャレンジしました。</p> <p>打ち合わせの時自分が今までやってきたようにすると、先輩たちからこの場合はどうする？と自分が主体ですはずの打ち合わせが、逆に質問を返す形となり、いつもの自分が足りなかったのだと痛感しました。打ち合わせ事項を何枚もの紙にまとめていた方もいました。参考にして自分もリストアップしてみようと思います。インストラクターの平井さんからは判定基準とスプリントをほめていただき、CK時に中の状況を猫背で覗き込むような見方で監視しているからその改善を心がけること、ボールに巻き込まれが数回あり、またいでよけてしまったことに対して、またぐ行為は絶対にしないようにと指摘していただきました。自分は体が大きいからこそ一つ一つの動きにこだわり、自分の見せ方も追及していきたいと思います。</p>
-------	---



# 【審判員研修】TRAUM CUP派遣審判員参加レポート

氏名	山根 晴喜	所属	岡山県協会
期間	3月8日～12日		

3月8日	今日は移動日でした。約8時間ぐらいかけて茨城につきました。到着してすぐ入浴しました。夕食を済ませた後にミーティングがありました。そこでは「この研修を通しての目的、U-22であったトラブル」などを確認しました
9日	今日は午前中はミーティングをしました。そこでは「シグナル」についてのセッションをしました。午後からは主審を45分しました。午前のセッションでシグナルの話題が出てきたので私はシグナルを意識しました。しかし緊張もありいつも通りのレフリングができませんでした。これは明日から絶対に修正しないとイケません。その為には良い準備をする必要があると私は考えます
10日	今日は副審が90分がありました。しっかり良い準備ができていたのであまり緊張はせず堂々としたレフリングができました。しかし運動量では終盤にかけて運動量が落ちていたのが自分でもわかります。夜のミーティングでは、自分のパフォーマンス、テクニカルな問題(特にゴール前)などの情報を共有しました。少し疲労がたまってきているのでケガをしないようにしっかりリカバリーしていきます
11日	今日は90分の主審の割り当てをいただきました。大会初日自分の思うレフリングができなかったのが、やってやろうという気持ちで試合に臨んだ。前半はインストラクターの方にもご指摘いただいたが、少し迷いがあった。理由はいろんなことにチャレンジしていたからだ。後半からは迷いなく試合に挑むことができた。明日で最終日、良い形で終わられるように良い準備をしたい。
12日	今日も主審の割り当てをいただいた。後半からの主審であったので難しくなることは想定できた。後半開始10分は前半と違い判定基準が厳しくなっていたので選手たちにストレスを与えてしまった。しかし判定基準は一貫できたので選手たちは私に協力してくれた。

